

# 元社員つなぐ「同窓会」

退職した社員との「同窓会」組織づくりが日本企業の間で広がっている。インターネット広告大手のセブティニー・ホールディングスがそのほど設立したほか、ヤフーはすでに1千人を超える組織をつくった。人手不足で転職市場が活況になり人材の流動化が進むなか、退職者とのネットワークを維持して再雇用や将来の協業の可能性などにつなげる狙いがある。

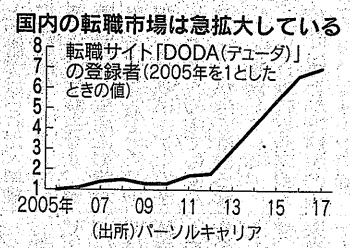
## ヤフーなど設立

### 協業や再雇用探る

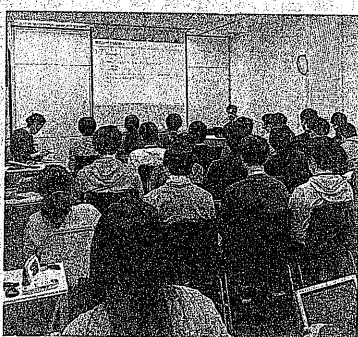
「アルムナイ」という言葉が、日本企業の同窓会組織に使われ始めた。学校の卒業生や出身者を意味する英語を指す。セブティニーの「アルムナイネットワーク」はOB社員が登録すると、企業は入社式などグループの近況を専用のサイトを通じて報告する。現役社員向けに提供する人工知能(AI)を活用したキャリアカウンセリングを返り業者も無料で使える。

現在は退職者の約1割が登録している。事業面での協業を求めたり、ある技術を持つOBを募集したりする掲示板の機能を年内にはサイトに加える計画で、登録者数をさらに増やす考えだ。

同社のシステムを提供するアルムナイのネットワークづくりを支援するスタートアップ企業、ハッカーステック(東京)・新宿だ。企業への提供を本格的に始めたのは



半年ほど前からだが、問い合わせが増えてきている(鈴木仁志代表取締役)という。



モバイルファクトリーは現役社員とOB社員が交流する講演会を開く

転職が一般的になりつつあるなか、退職を縁の社員などから知人を紹介してもらおう採用の手法が広がっていることも背景にある。

ヤフーの同窓会組織の人数は18年3月時点で1千人を超える。スマートフォン向けゲーム開発のモバイルファクトリーは現役社員とOB社員が交流する講演会を開く

「退職OBの集まり」元物産会」があります。三井物産の中途退職者にはこんなチャンネルが会社から配られている。この会は名刺管理サービスを展開するSansan(東京・渋谷)の寺田親社長らが幹事役を務めるOBの集まりだ。現在のメンバーは約340人。11年の設立当初は会社側とのつながりはなかったが、両者は急速に

接近している。三井物産でも寺田社長のように起業したり、転職したりする若手や中堅社員が増えている。18年7月に開かれる年に1回の総会には会社側から幹部も参加する予定。寺田社長は「一生働く人しか受け入れないという企業文化では優秀な人はやってこない」と話す。スニップ専門店のスニップストックトーカー(東京・目黒)がOBに対して配るのが「パーチャル社員証」だ。アルバイトや社員を辞めた人の中で希望者に配っており、社員割引と同じような特典が受けられる。社内向け交流サイトを利用できるようにして退職者でも会社の最新情報を得られる。思いを同じくするパーチャル社員を増やすことで「より大きく強い組織体になる」と人材開発部の養沼史宙・副部長は話す。ただ各社とも情報の取り扱いについては現役社員と分けて提供する例が多い。情報セキュリティに配慮しつつ、必要な情報や一体感を共有するよう工夫している。(井上孝子)